

「釧路港国際バルク戦略港湾 国際物流ターミナル着工記念式」開催

釧路開発建設部 築港課

「釧路港国際バルク戦略港湾 国際物流ターミナル着工記念式」を港湾管理者である釧路市と事業主体である北海道開発局釧路開発建設部により、平成 27 年 12 月 27 日(日)に釧路市観光国際交流センターで開催しました。

同ターミナルには、とうもろこし等の飼料原料を満載した大型船の入港を可能とする岸壁(水深 14m)などを整備することにより、大型船での大量一括輸送による効率的な輸送体系の実現を目的としており、平成 26 年度に着手し、平成 29 年度の完成を目指しています。

式典には、伊東良孝農林水産副大臣、佐藤英道農林水産大臣政務官、鈴木貴子衆議院議員をはじめとする約 130 人が出席しました。

式辞では、数土勉釧路開建部長が「ターミナルの早期の供用を目指し、全力で取り組む」と決意を表明し、蝦名大也釧路市長が「整備効果は釧根地域だけでなく、東北地方や全国にも波及する」と整備の効果をアピールしました。

続く挨拶では、菊地身智雄国土交通省港湾局長が「国際バルク戦略港湾の形成に向け、施策の推進に全力で取り組んでいく」と述べました。

また、祝辞では、伊東良孝農林水産副大臣が「飼料輸送コストが低減され、良質な飼料を安定して供給できるようになる」と述べ、国際物流ターミナルの早期完成に期待感を示しました。佐藤英道農林水産大臣政務官は「事業により、船舶の大型化に対応でき、かなりの経費が削減されるとともに、産業競争力の強化と雇用の安定を図ることができる」と述べ、さらに事業の早期整備を後押しする考えを示しました。鈴木貴子衆議院議員は「バルク港と 1 次産業は切っても切れない関係」と述べ、1 次産業が重要であるとの考えを示しました。

さらに、飼料ユーザーである背後圏の酪農家を代表して、石橋榮紀釧路農業協同組合連合会代表理事会長が「酪農が発展するための基地ができる。嬉しい限り。」と述べ、事業への期待感を示しました。

その後、蝦名市長から、国際物流ターミナルの一体

運営を行う釧路西港開発埠頭株式会社の米谷好晃代表取締役社長に事業者の認定書が手渡されたほか、着工記念セレモニーでは、関係者の代表が釧路子供ミュージカル「キッズロケット」の子供たちとくす玉を割って着工を祝いました。



式典の様子



くす玉を割って着工を祝う



釧路港国際バルク戦略港湾 国際物流ターミナル
完成イメージ